

# 北興化学工業株式会社

---

2017年11月期決算説明資料

2018年1月12日

東証第一部 証券コード4992

# 決算説明資料目次

I	2017年11月期決算	2
II	2018年11月期の見通し	14
■	補足説明資料	19

# I 2017年11月期決算

# □ 連結業績

(百万円)

	2014/11		2015/11		2016/11		2017/11		前期比	増減率
売上高	42,416	(100%)	42,251	(100%)	40,117	(100%)	39,826	(100%)	△292	△0.7%
営業利益	1,364	(3.2%)	2,497	(5.9%)	2,464	(6.1%)	2,286	(5.7%)	△178	△7.2%
経常利益	1,790	(4.2%)	2,956	(7.0%)	2,777	(6.9%)	3,541	(8.9%)	+765	+27.5%
当期純利益	997	(2.4%)	1,900	(4.5%)	1,965	(4.9%)	1,989	(5.0%)	+24	+1.2%

◆為替レート(1米ドル=)・・・ 2016年:110.01円、2017年:112.34円

- 売上高は、農薬事業における除草剤などの流通在庫の影響などにより減収
- 営業利益は、農薬事業の減収や海外子会社における製造原価の増加などにより減益
- 経常利益は、海外企業からの受取配当金の大幅な増加および為替損益の改善などにより増益
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、海外子会社における工場設備の減損損失計上などにより前期並み

注)表示方法の変更について

当社は、たな卸資産の一部についてその廃棄損を営業外費用に計上していましたが、2016年度より売上原価として計上する方法に変更しました。これに伴い、2014～2015年度については、「営業利益」並びに「セグメント別農薬事業の営業利益」を、同様の基準で組み替えて表示しています。なお、売上高、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の表示に変更はありません。

# □ 連結業績（損益の主要な変動要因）

（百万円）

	2017年度 損益実績	損益変動要因	
		影響額	影響額内訳
売上高	39,826	—	
売上原価	29,793	+436	・海外子会社における製造原価の増加 273 ・たな卸資産の評価基準変更 163
売上総利益	10,032	△436	
販売費及び一般管理費	7,746	—	
営業利益	<b>2,286</b>	<b>△436</b>	
営業外収益	1,386	+648	・海外企業からの配当金含む受取利息・配当金の増加 638 ・為替損益の改善 10
営業外費用	130	△282	・為替損益の改善 △282
経常利益	<b>3,541</b>	<b>+494</b>	
特別利益	87	—	
特別損失	778	+649	・海外子会社における工場設備の減損損失計上 649
税金等調整前 当期純利益	<b>2,851</b>	<b>△155</b>	

- ・ 営業利益は、農薬事業の減収や海外子会社における製造原価の増加などにより減益
- ・ 経常利益は、海外企業からの受取配当金の大幅な増加および為替損益の改善により増益
- ・ 税金等調整前当期純利益は、海外子会社における工場設備の減損損失計上などにより前期並み

# □ 株主還元

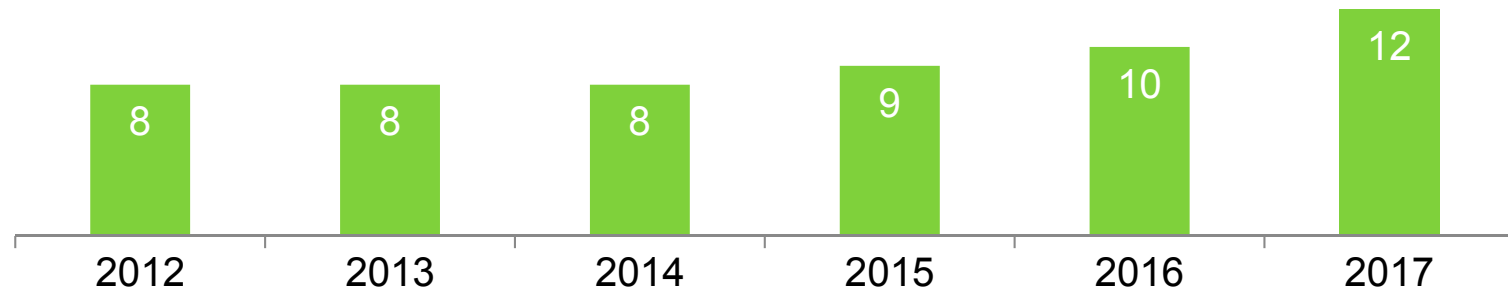
## ➤ (基本的な考え方)

安定的な利益配分の継続を基本方針とし、内部留保の蓄積や成長投資とのバランスを図りつつ、利益動向に応じた株主還元を実施する

## 《配当方針》

- 利益水準によらず過去から行ってきた安定配当を継続して実施する
- 計画期間の業績に応じ適正に利益配分を行う
- 3ヵ年経営計画では引続き自己資本の拡充を目指すため配当水準の目標は定めず、2021年度からの次期中期経営計画で目標設定することを目指す

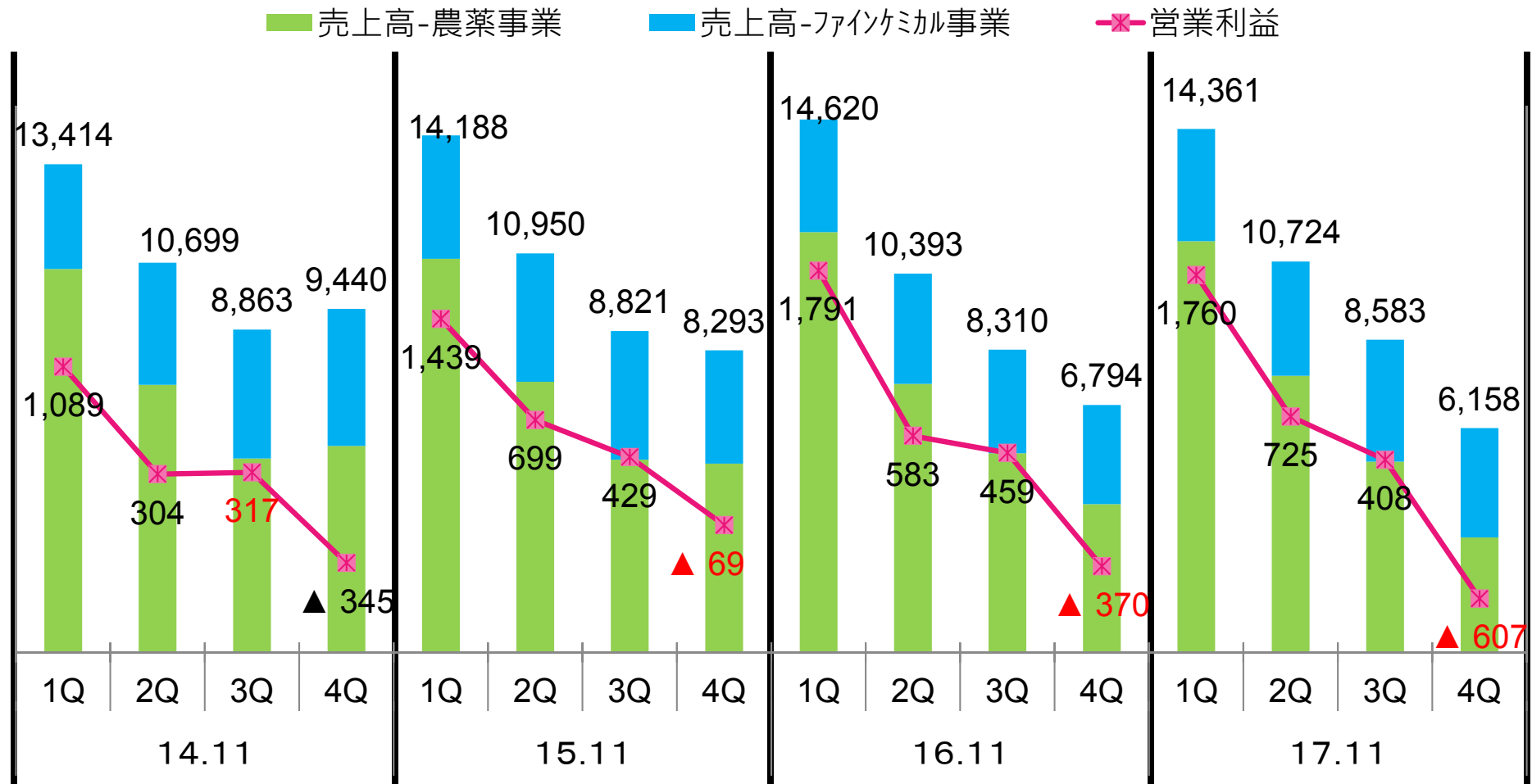
1株あたり配当金の推移(円)



配当性向	155.6%	45.3%	22.1%	13.1%	14.0%	16.5%
自己株式取得	—	—	—	—	—	3億円
総還元性向	155.6%	45.3%	22.1%	13.1%	14.0%	31.5%

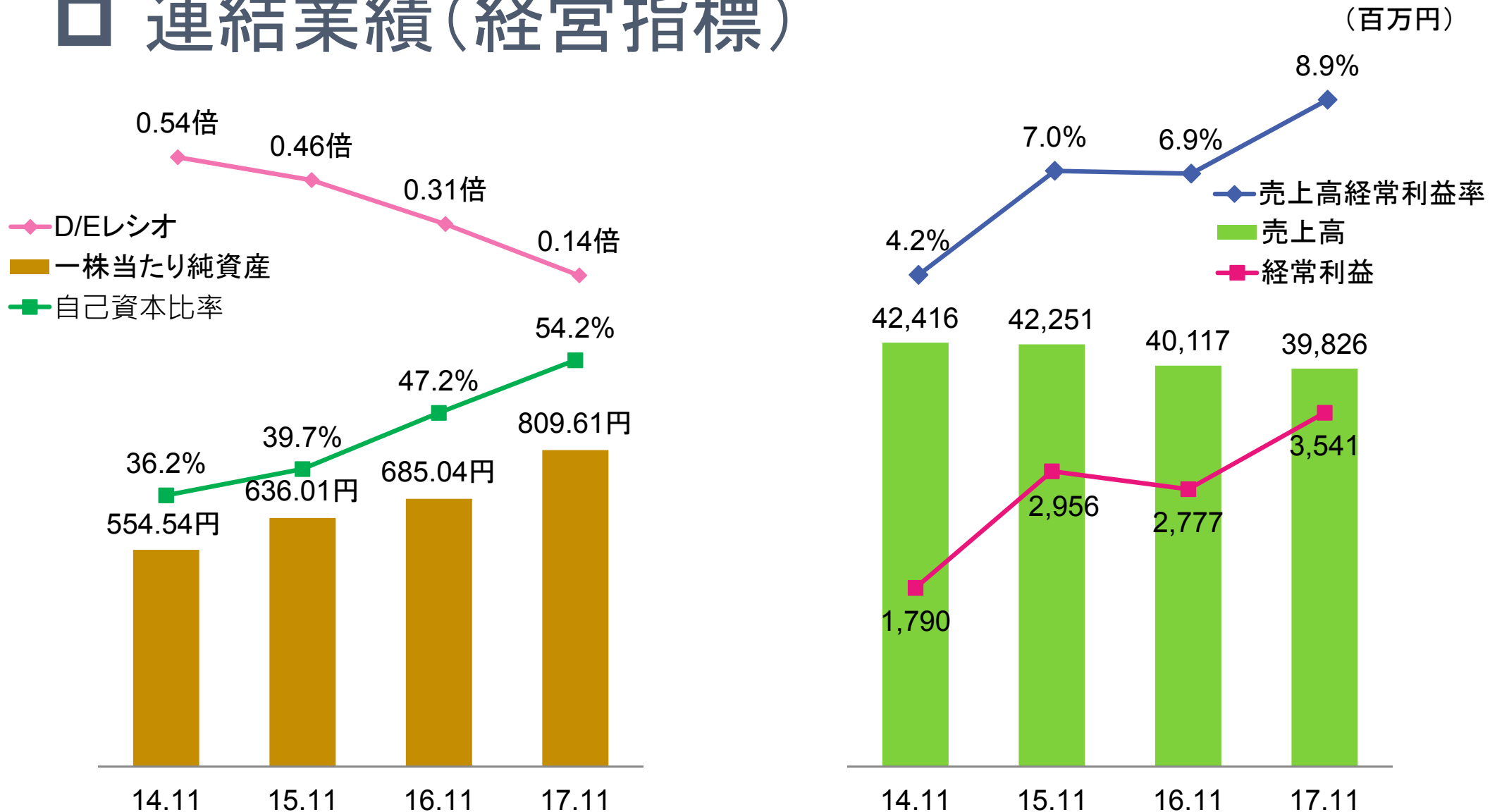
# □ 連結業績（四半期毎の推移）

（百万円）



- 農薬の需要は季節性があることから、当社の売上・利益はそれに合わせて第1四半期がピークとなり、第2四半期以降は減少する特徴がある

## □ 連結業績（経営指標）



- 2017年度利益の積上げにより一株当たり純資産・自己資本比率が上昇、D/Eレシオは0.14倍に低下
- 売上高が減少する一方で経常利益が増加し、売上高経常利益率は8.9%に上昇

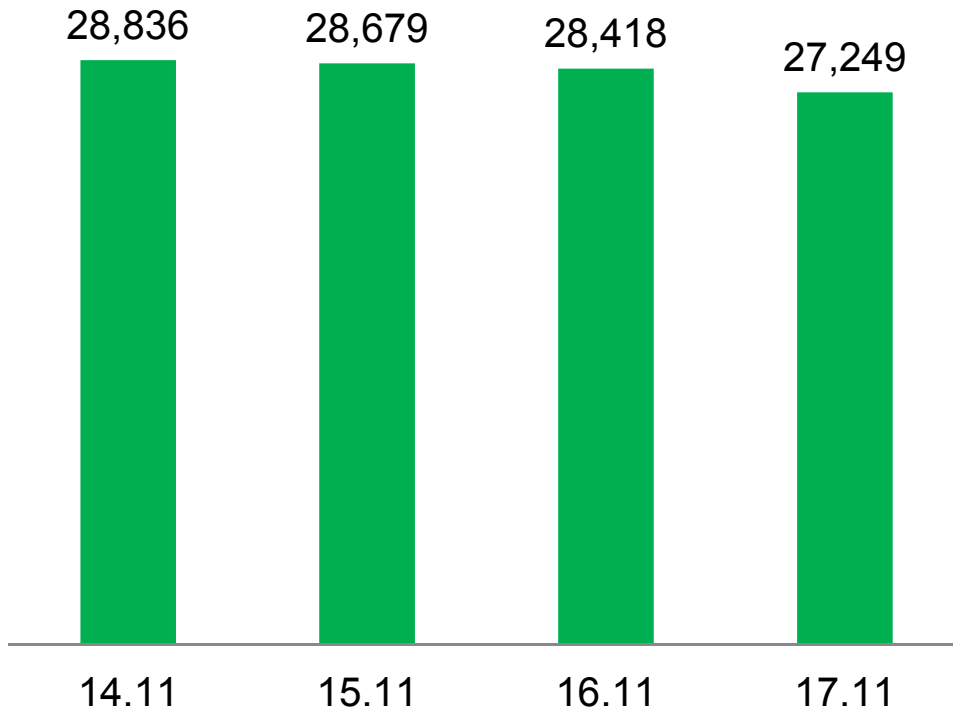


□ セグメント別業績

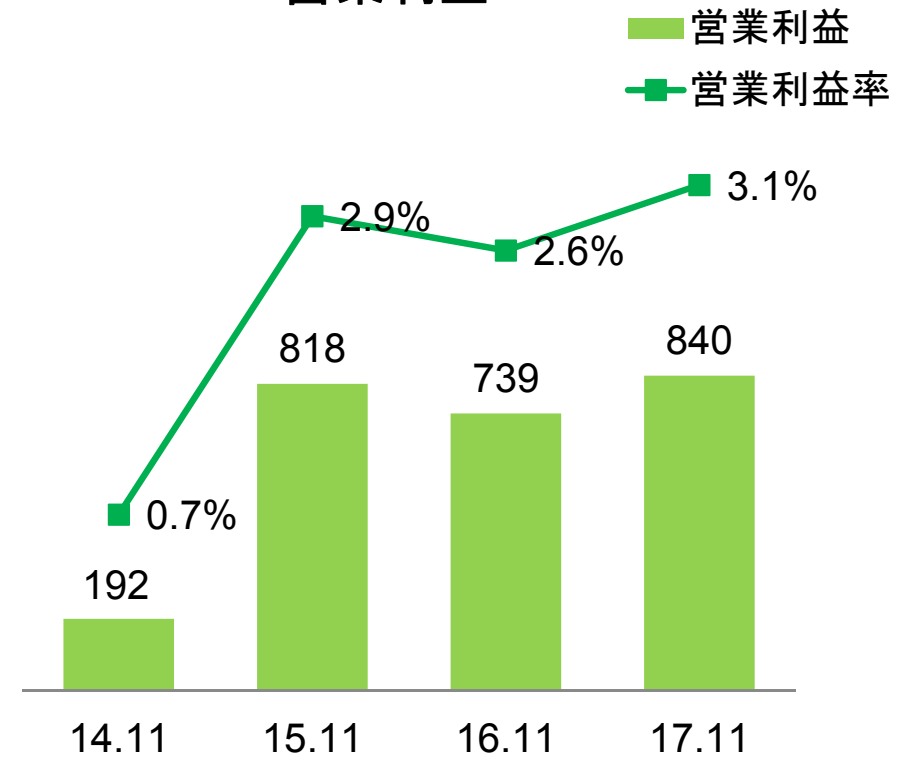
# 農薬事業

(百万円)

## 売上高



## 営業利益



2017年度／売上高…前期比4.1%減、営業利益…同13.5%増

- 2017年11月期の売上高は、国内販売では、除草剤や殺虫殺菌剤が流通在庫の影響などにより減少、海外販売では、アジア地域を中心に受注が増加し、全体では国内販売の減少が響き減収
- 一方、営業利益は、製造原価の低減などにより増益



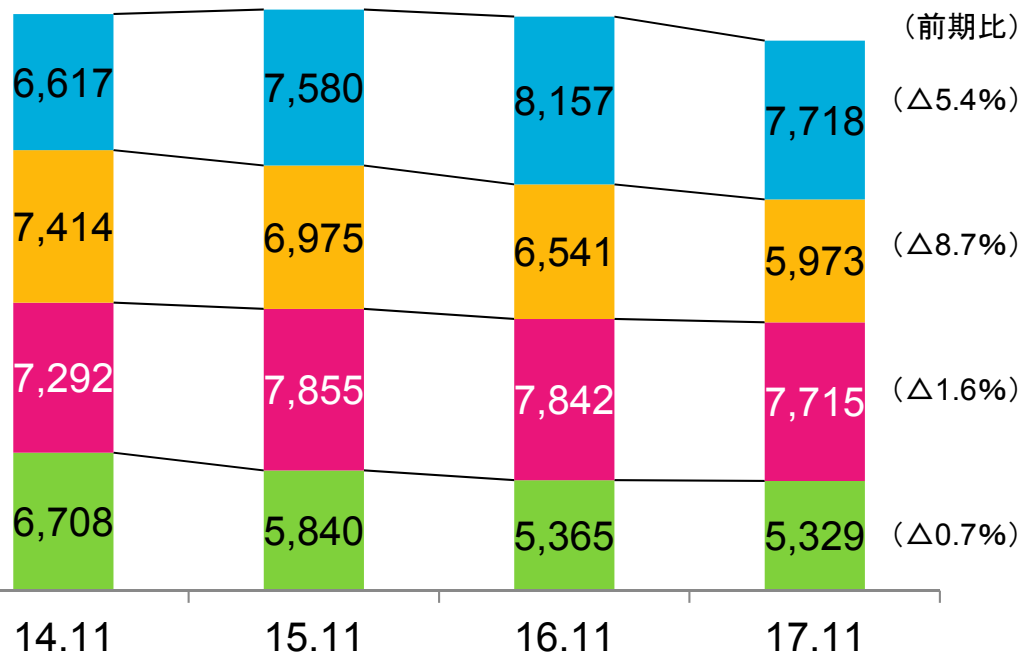
□ セグメント別業績

# 農薬事業(種類別・輸出売上高)

(百万円)

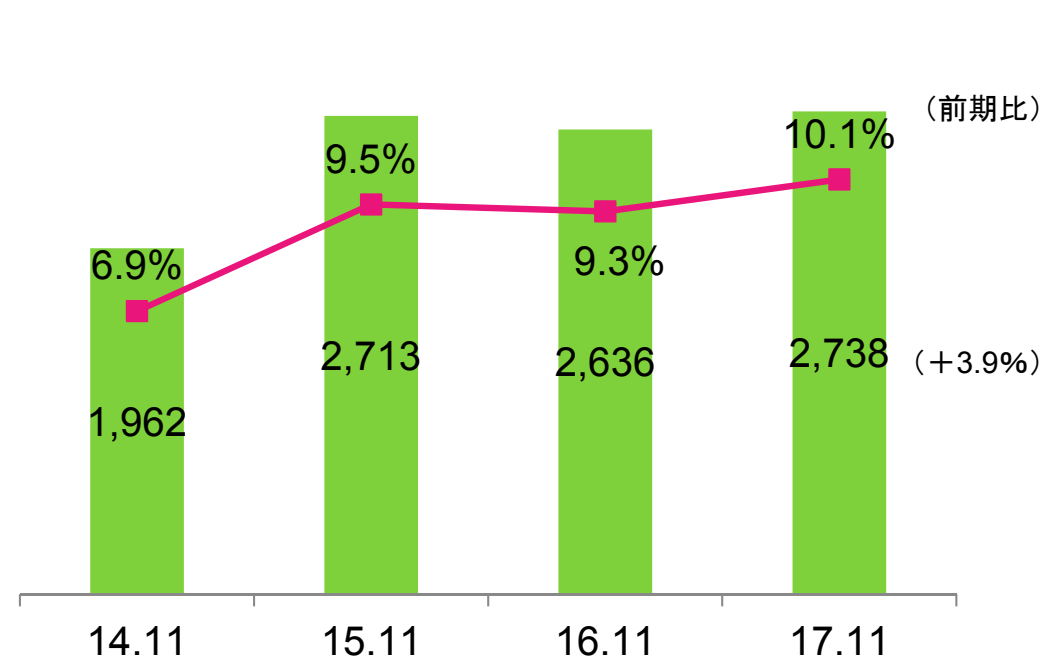
種類別(個別)

■ 殺虫剤 ■ 殺菌剤 ■ 殺虫殺菌剤 ■ 除草剤



輸出(個別)

■ 輸出 ■ 輸出割合

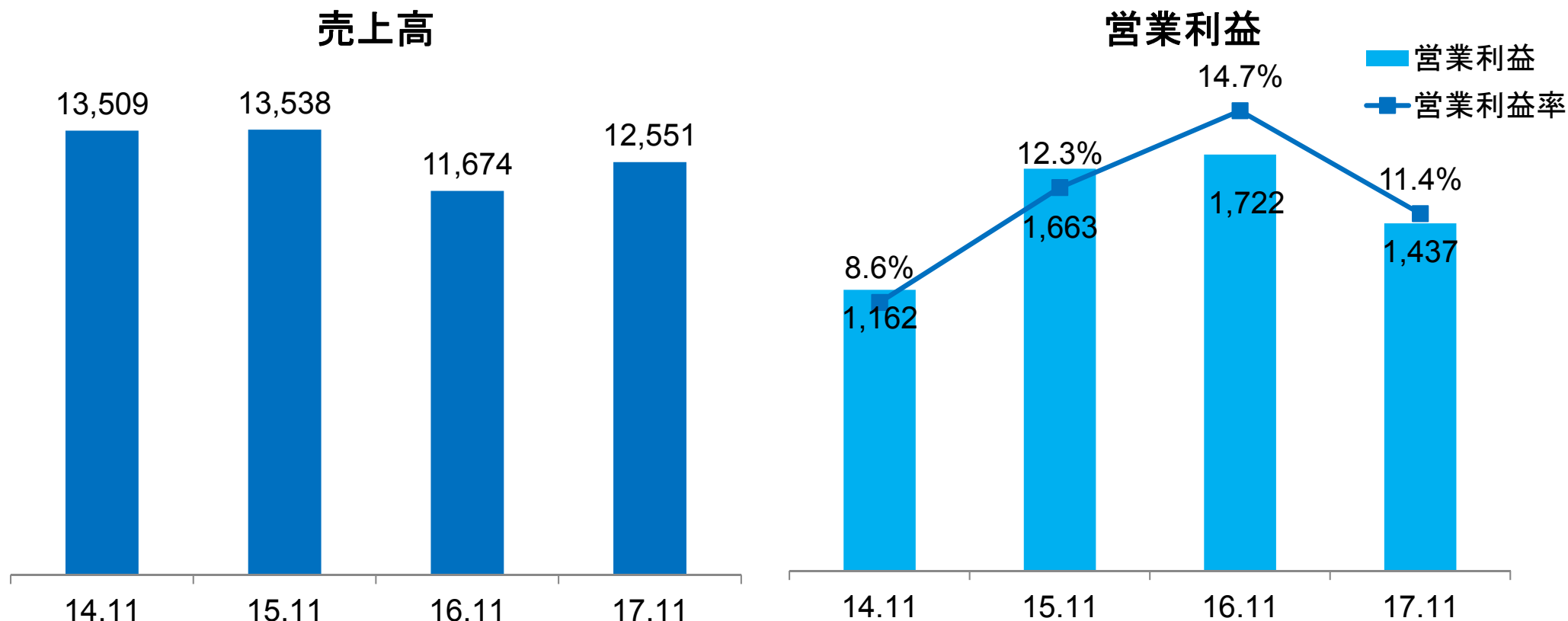


- 国内の流通在庫の影響などにより、除草剤や殺虫殺菌剤が大幅に減少
- 主に自社開発原体カスガマイシン含有製品の海外からの受注の増加により、輸出売上高が増加し、農薬事業における輸出割合が上昇

□ セグメント別業績

## ファインケミカル事業

(百万円)



2017年度／売上高…前期比7.5%増、営業利益…同16.5%減

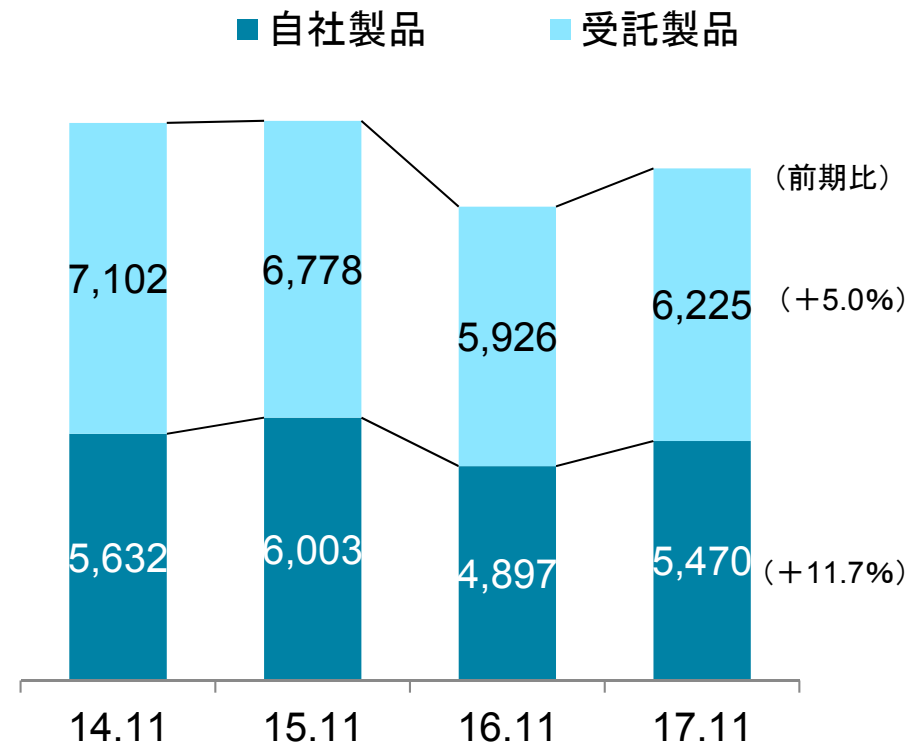
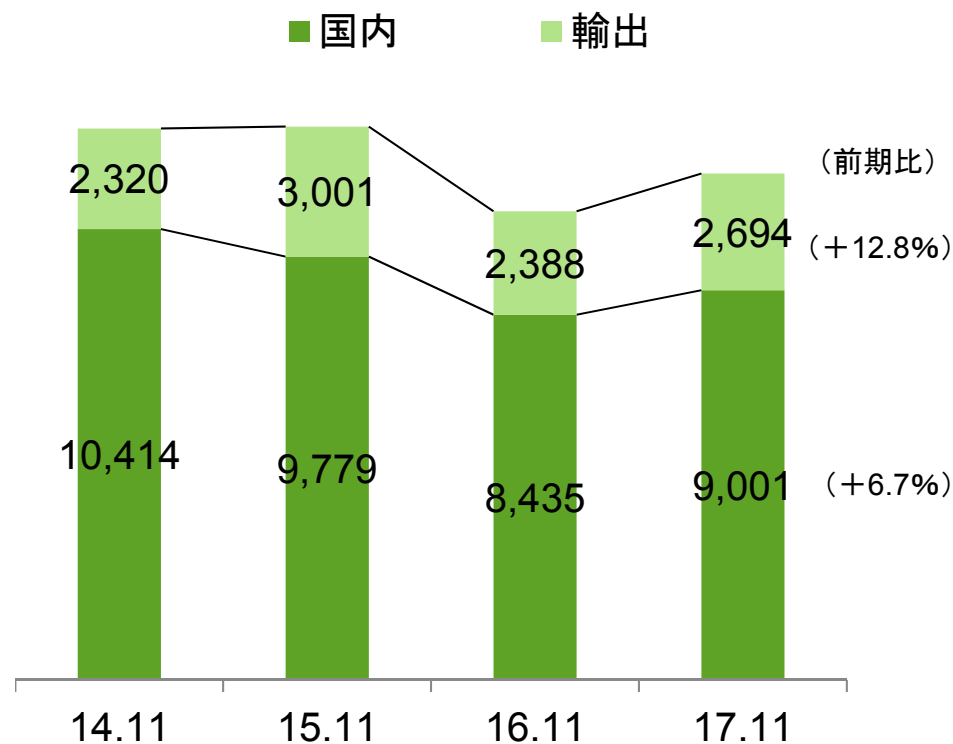
- 2017年11月期の売上高は、堅調な国内外の景気を背景に製品需要が回復し、主要分野の電子材料および医農薬中間体の販売が好調に推移したことにより増収
- 一方、営業利益は、海外子会社における製造原価の増加などにより減益

## □ セグメント別業績 ファインケミカル事業(国内輸出別・自社受託製品別売上高)

(百万円)

国内・輸出別(個別)

自社・受託製品別(個別)

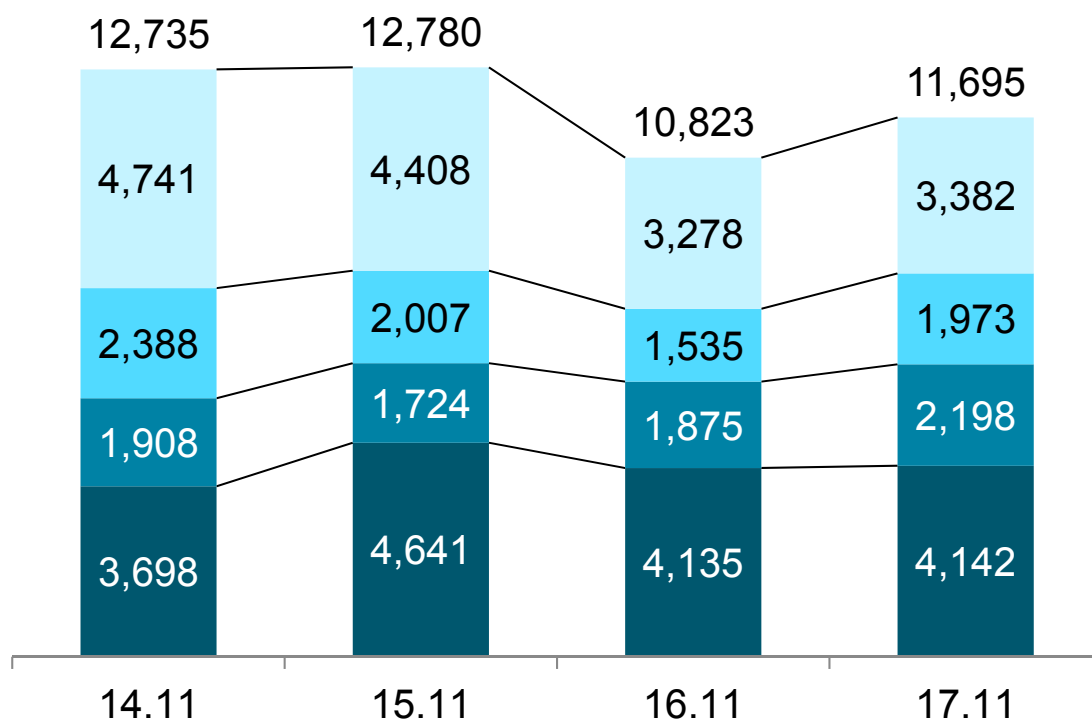


- 2017年度は、堅調な国内外の景気を背景に国内・輸出ともに売上高が増加、特に輸出が大きく増加
- 自社・受託製品別では、ほぼ半々で推移しているが、2017年度は自社製品が大きく増加

## □ セグメント別業績 ファインケミカル事業(分野別売上高)

分野別(個別) (百万円)

■ 樹脂 ■ 医農薬 ■ 電子材料 ■ その他



2017/11分野別  
前期比増減(個別)

分野	前期比
樹脂	↑ +3.2%
医農薬	↑ +28.6%
電子材料	↑ +17.2%
その他	↑ +0.2%
合計	↑ +8.1%

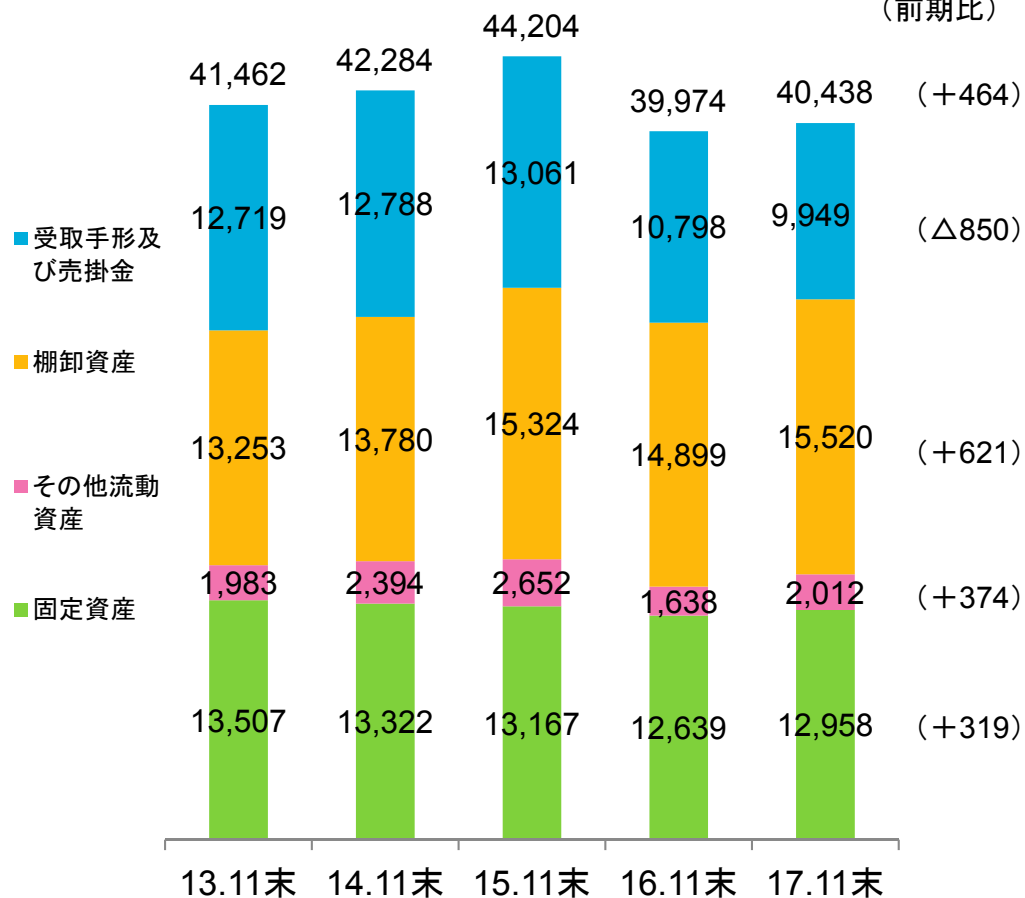
- 2017年度は堅調な国内外景気を背景に、樹脂、医農薬および電子材料など主要な分野を中心に売上高が増加

# □ 連結B/Sの推移

(百万円)

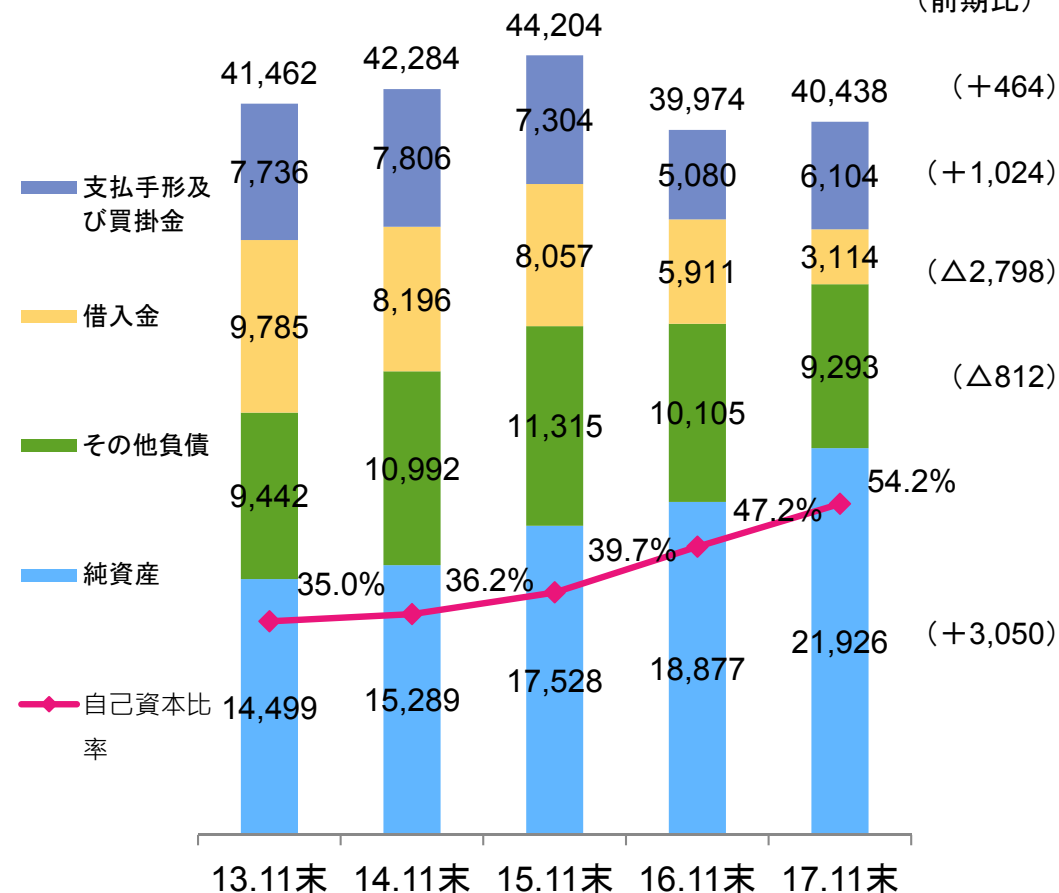
## 資産の部

(前期比)



## 負債・純資産の部

(前期比)



- 利益の積み上げにより、借入金が大幅に減少、自己資本比率は54.2%に上昇

## Ⅱ 2018年11月期の見通し

## □ 連結業績予想

(百万円)

	2017/11実績		2018/11予想		増減	増減率
売上高	39,826	(100%)	41,400	(100%)	+1,574	+4.0%
営業利益	2,286	(5.7%)	2,650	(6.4%)	+364	+15.9%
経常利益	3,541	(8.9%)	3,100	(7.5%)	△441	△12.5%
当期純利益	1,989	(5.0%)	2,100	(5.1%)	+111	+5.6%

◆為替レート(1米ドル=)・・・ 2017年:112.34円、2018年:110.00円

(参考)

受取利息・配当金除く 経常利益	2,665	(6.7%)	3,010	(7.3%)	+346	+13.0%
--------------------	-------	--------	-------	--------	------	--------

- 売上高は、農薬事業における販売の増加により増収見込み
- 営業利益は、主に農薬事業における増収効果により増益の見込み
- 一方、経常利益は海外企業からの受取配当金の大幅な減少が見込まれることから、減益の見込み(参考:受取利息・配当金を除いた利益では346百万円の増益)





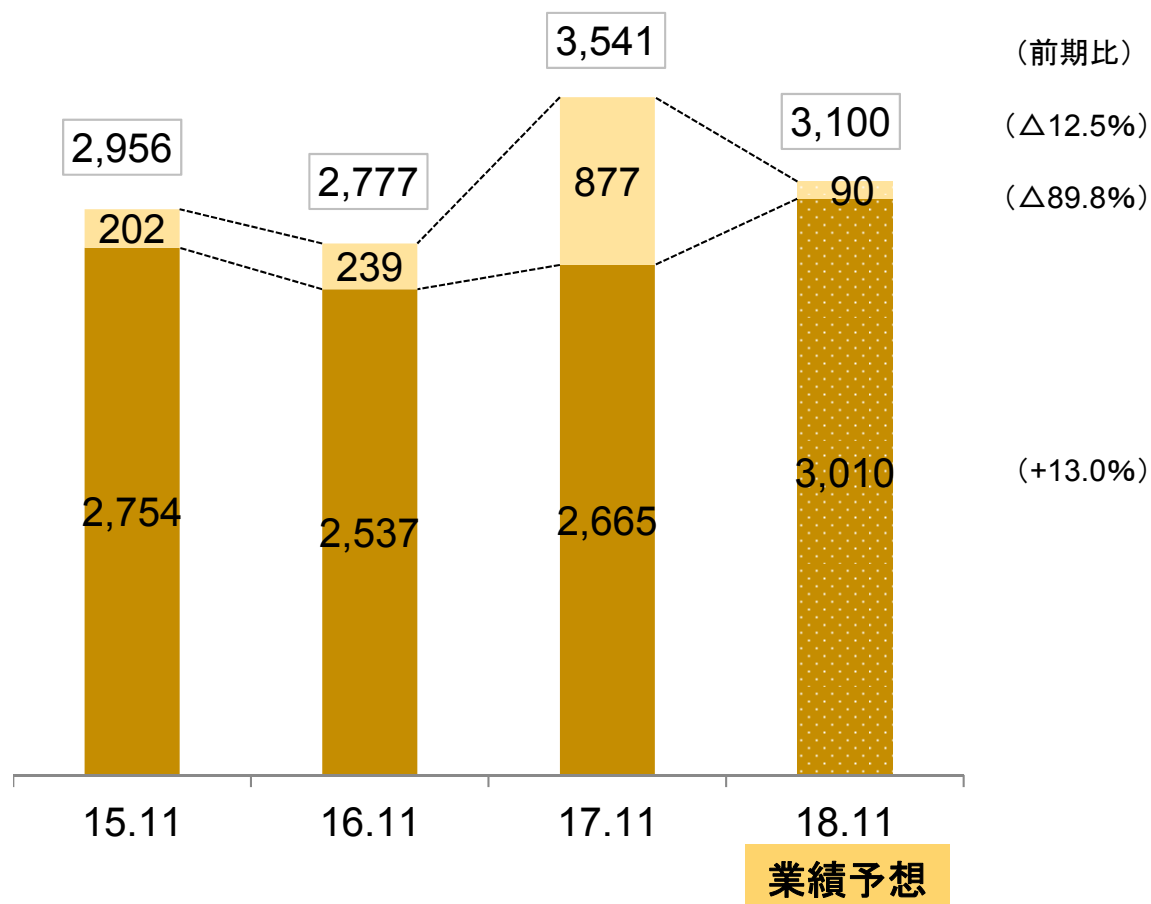
□ 連結業績予想

## 2018年度 経常利益予想の内訳

### ■ 経常利益の内訳別推移

■ その他    ■ 受取利息・配当金

(百万円)



### ● 2018年度 経常利益予想

- 経常利益合計では、海外企業からの受取配当金の減少が見込まれることから、前期比△441百万円(△12.5%)の見込み
- 受取利息・配当金を除いた金額では、前期比+346百万円(+13.0%)の見込み

# □ セグメント別業績予想

## ◆ 農薬事業

(百万円)

	2017/11実績	2018/11予想	増減	増減率
売上高	27,249 (100%)	28,730 (100%)	+1,481	+5.4%
営業利益	840 (3.1%)	842 (2.9%)	+2	+0.3%

### ● 2018/11期 見込み

- 国内における流通在庫の影響の解消や輸出における出荷数量の増加などにより、農薬事業全体の売上高は大幅に増収となる見込み
- 営業利益は、増収に伴う利益の増加があるものの、研究開発費など販売費及び一般管理費が増加することから、ほぼ横這いとなる見込み

### ● 2018/11期 主な取組み

- 生産者の省力化ニーズや進化する栽培技術・農業機械に適応した製品の開発および新しい栽培・防除技術に対応した農薬の施用方法等の提供を通じ販売拡大に努める
- 海外販売では、熱帯地域に適合する薬剤開発のための海外試験圃場の開設、主要水稻栽培国での自社開発製品の農薬登録取得促進および開発・普及拠点の設置の検討を進める



## □ セグメント別業績予想

### ◆ ファインケミカル事業

(百万円)

	2017/11実績		2018/11予想		増減	増減率
売上高	12,551	(100%)	12,640	(100%)	+89	+0.7%
営業利益	1,437	(11.4%)	1,801	(14.2%)	+364	+25.3%

#### ● 2018/11期 見込み

- 売上高は、国内外景気の回復基調を背景に引き続き製品需要が好調に推移し、微増となる見込み
- 営業利益は、海外子会社の製造原価の低減などにより、増加する見込み

#### ● 2018/11期 主な取組み

- 電子材料分野での計画的な増産対応や当社が得意とする有機リン化合物の製品開発強化により、既存ビジネスにおける販売拡大を図る
- アライアンス等による医薬分野における販路拡大など、新規ビジネスの創出に注力する



# ■ 補足説明資料

# □ 企業情報

(2017年11月30日現在)

会社名	北興化学工業株式会社
事業内容	農薬の製造・販売、ファインケミカル製品の製造・販売
設立	1950年(昭和25年)2月
本社	東京都中央区日本橋本町一丁目5番4号
支店	札幌、仙台、東京、新潟、大阪、岡山、福岡
国内工場	北海道、新潟、岡山
研究所	厚木(神奈川県) 試験農場を研究所内とは別に北海道、静岡に保有
資本金	3,214百万円
従業員	637名(単体) / 751名(連結) いずれも臨時雇用者は除く
連結子会社	北興産業(株)、美瑛白土工業(株)、ホクコーパックス(株)、 張家港北興化工有限公司(中国江蘇省)
非連結子会社	HOKKO CHEMICAL AMERICA CORPORATION (米国ノースカロライナ州)

# 事業内容

(2017年11月期)



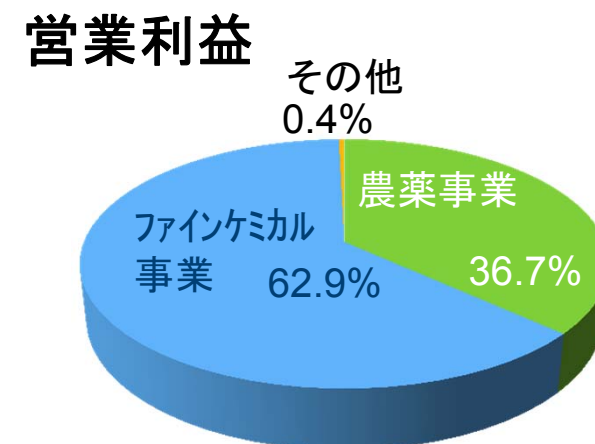
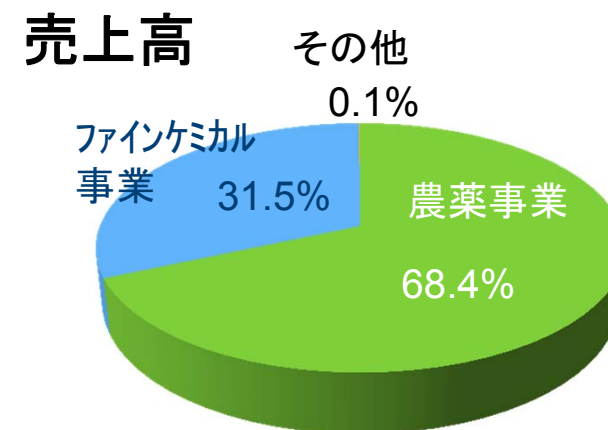
## 農薬事業

- 殺菌剤、殺虫剤、除草剤等の製造・販売



## ファインケミカル事業

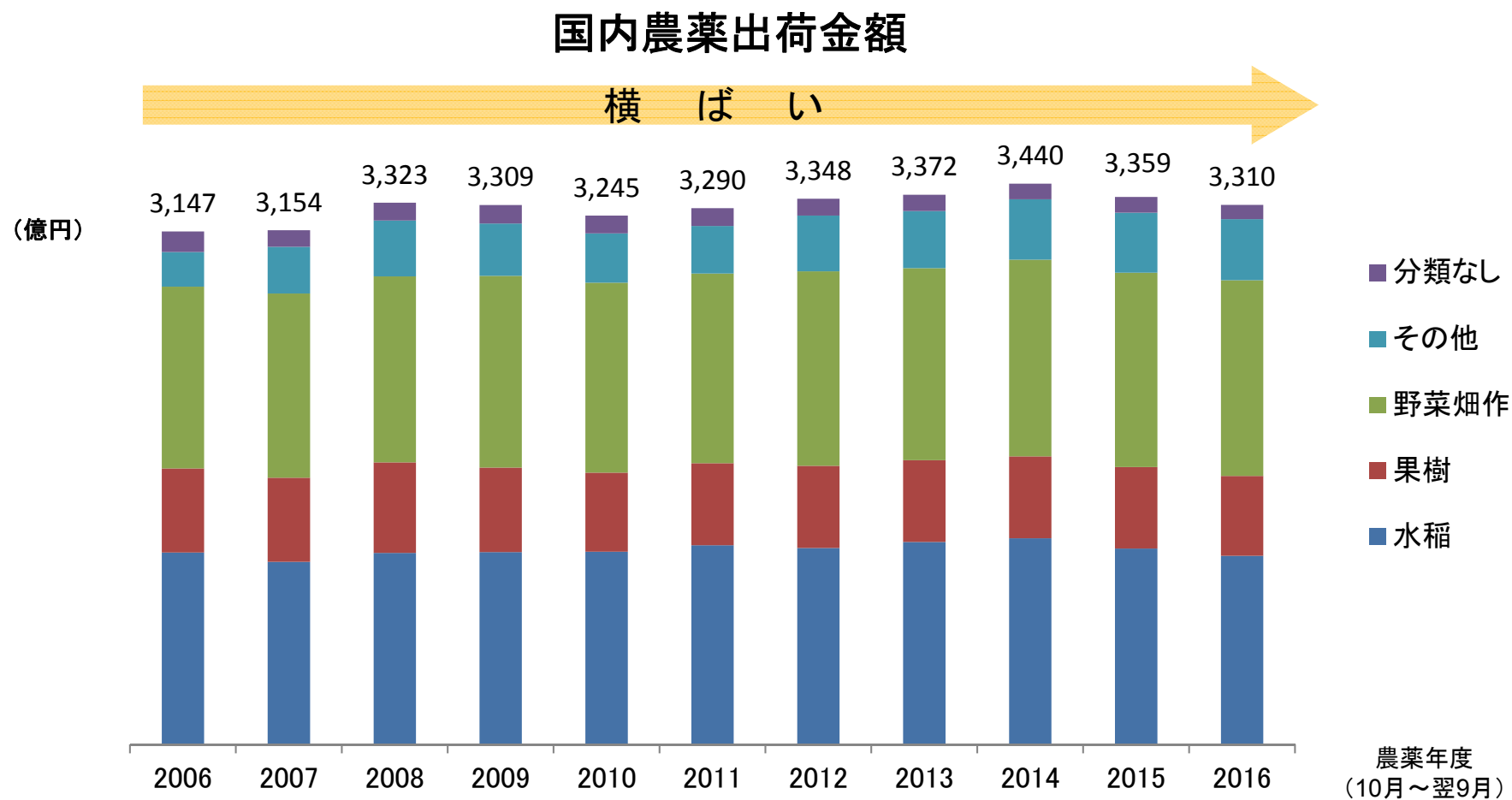
- 樹脂、医農薬、電子材料等向けの原料・中間体・触媒の製造・販売



※ その他は石油製品の売上等

## □ 農薬事業

- ・国内の農薬市場動向 ⇒ 近年ほぼ横ばいで推移

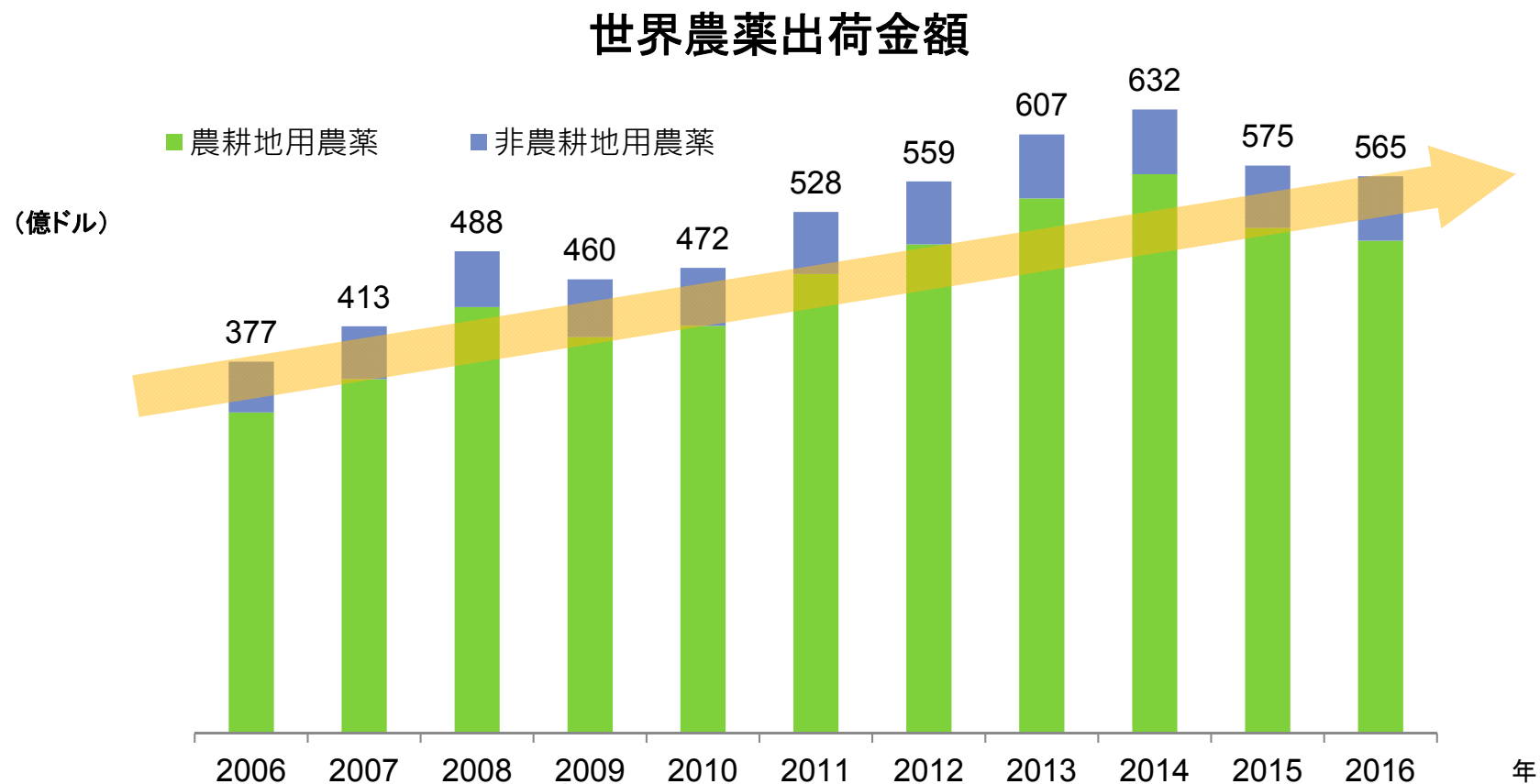


(出典: 農薬工業会)

## □ 農薬事業

### ・世界の農薬市場動向

⇒直近2年は減少も、長期的には食料需要の増大等に伴い拡大予測



(出典: Phillips McDougall)



## □ 農薬事業

### ◆ 当社の国内・海外向け事業

- 国内市場の成熟と世界市場の拡大に伴い、海外向け販売割合が増加傾向

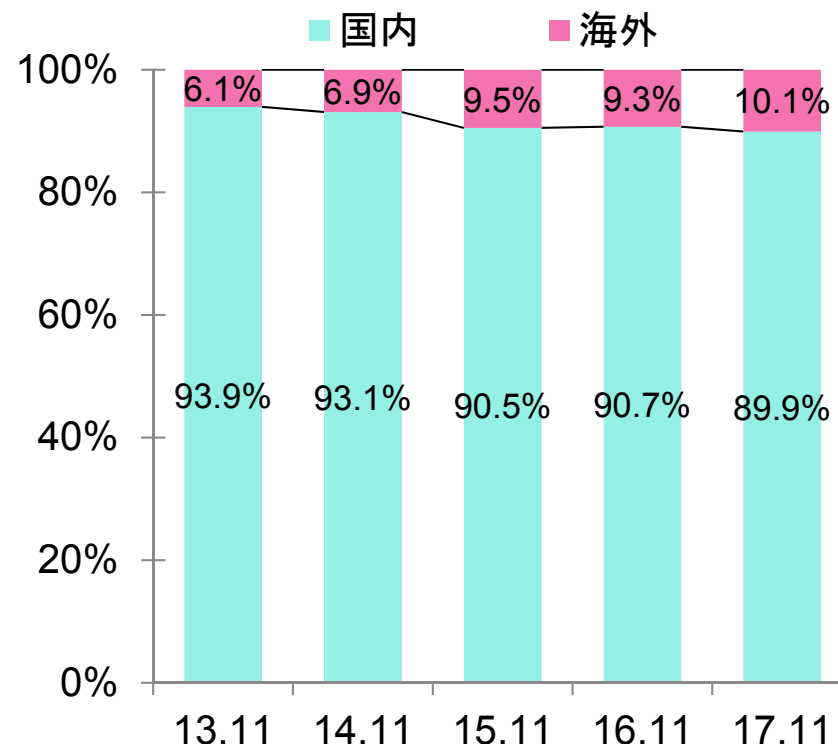
#### 国内

- JAを通じてエンドユーザーに供給（系統ビジネス）
- 農薬メーカー他社からの依頼に基づく受託製造

#### 海外

- 主にアジア、北中南米等に商社を通じ販売

当社農薬事業の売上構成

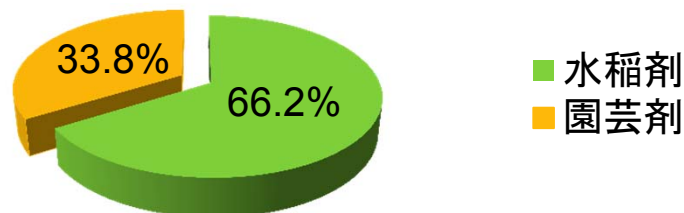


# 農薬事業

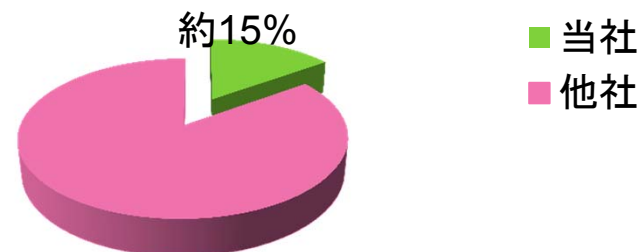
## ◆ 水稻市場に強み

### 当社国内農薬売上の分野別構成

(2017年11月期)



### 国内水稲剤出荷額の当社シェア(推定)



## ◆ 製剤技術に強み

日本の就農人口  
の減少・高齢化

省力化ニーズ  
の増大

簡便な処理が可能な  
剤型の開発に注力

### 【主な製品例】

Dr.オリゼ<sup>®</sup>箱粒剤(1997年9月登録)

- Meiji Seika ファルマ(株)との共同開発
- 水面施用のオリゼメートを育苗箱施用の粒剤として開発
- (メリット)作業負担が軽減され、処理時期が緑化期～田植当日までへ拡大

## ◆ 当社の農薬原体

自社開発原体	原体名	登録年	分野	種類
	カスガマイシン	1965年	水稲・園芸	殺菌剤
	塩基性塩化銅	1966年	園芸	殺菌剤
	イミベンコナゾール	1994年	園芸	殺菌剤
	イプフェンカルバゾン	2013年	水稲	除草剤

共同開発原体	原体名	登録年	分野	種類
	テフリルトリオン	2010年	水稲	除草剤

- 全国農業協同組合連合会・バイエルクロップサイエンス(株)との共同開発



# □ 農薬事業

## ■ イプフェンカルバゾン

- トリアゾリノン骨格をもつ水稲除草剤⇒2013年8月に登録し、2014年に上市  
2016年 日本農薬学会 業績賞(技術)受賞

### 特長・効果

水稲に対する高い安全性を示し、「ノビエ」※に対する高い効果と優れた残効性

※イネ科ヒエ属の野生種の総称で、米作地帯の代表的雑草。

### 国内

- ✓ 2014年の上市後毎年売上が拡大

農薬年度(10月～翌9月)

	2014	2015	2016	2017
推定使用面積(千ha)	9	77	145	144
シェア※	0.5%	4.5%	8.3%	8.4%

※使用時期が同じタイプの水稲除草剤に占めるシェア

公益財団法人 日本植物調節剤研究協会の統計より作成

### 製品

ウィナー、カチボシ、キマリテ

### 海外

- ✓ アジアの水稲市場を中心に開拓を進め、2014年4月に韓国で登録取得し販売中
- ✓ 台湾では2018年に登録予定
- ✓ ベトナム、インド、タイ、インドネシア等では登録に向けて試験を実施中



# □ 農薬事業

## ■ カスガマイシン

- 奈良・春日大社の土壌より分離した放線菌により生産される殺菌剤  
⇒1965年5月に登録後、約50年にわたり使用されている

### 特長・効果

水稻の「いもち病」※に使用され、野菜類の細菌性病害にも高い効果 ※イネに発生する主要な病気の1つ。大幅な減収と食味の低下を招く。

### 国内

- ✓ 水稻の育苗箱から本田散布、空中散布まで幅広く使用可能
- ✓ 甜菜の褐斑病、茶の輪斑病・赤焼病に高い効果

### 主な製品

カスミン液剤、カスミンボルドー、ダブルカット剤

### 海外

- ✓ 世界40カ国で登録（アジアでは主に水稻の「いもち病」防除剤として、他の国では野菜・果樹の細菌病防除剤として使用）
- ✓ 特に米国では、10年以上の歳月をかけ2014年に登録を取得し、りんごの火傷病※に効果を発揮

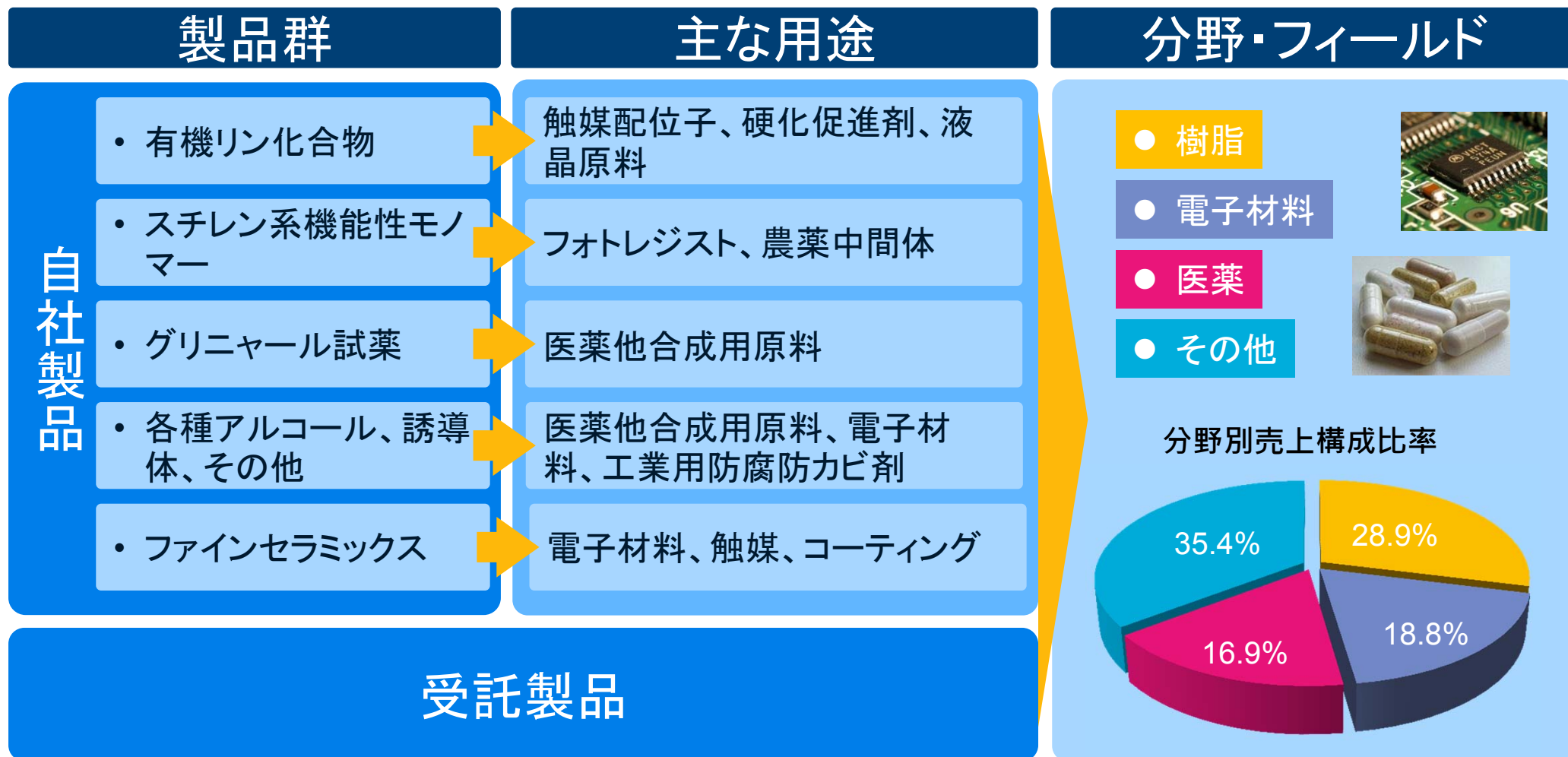
※ 海外において、りんごに大きな被害をもたらす病害で、従来の薬剤への耐性菌が発生し、代替剤が強く望まれていた

- ✓ 海外での需要増に応え販売拡大に注力中



## □ ファインケミカル事業

- グリニャール反応をコア技術として、幅広い分野・フィールドに対して製品を供給
- 自社製品販売と受託製造の事業を展開



# □ ファインケミカル事業

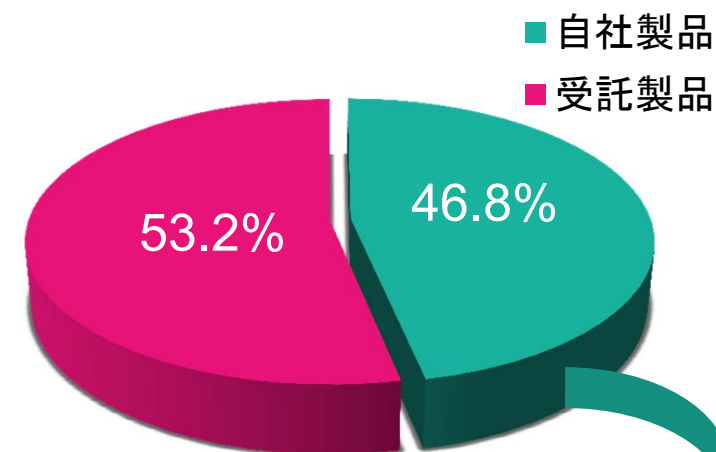
## ◆ 自社製品

- 主要製品はTPP（Tri Phenyl Phosphine >有機リン化合物）
- 多方面の分野・フィールドに対して提供
- 世界トップクラスのメーカーとなっている

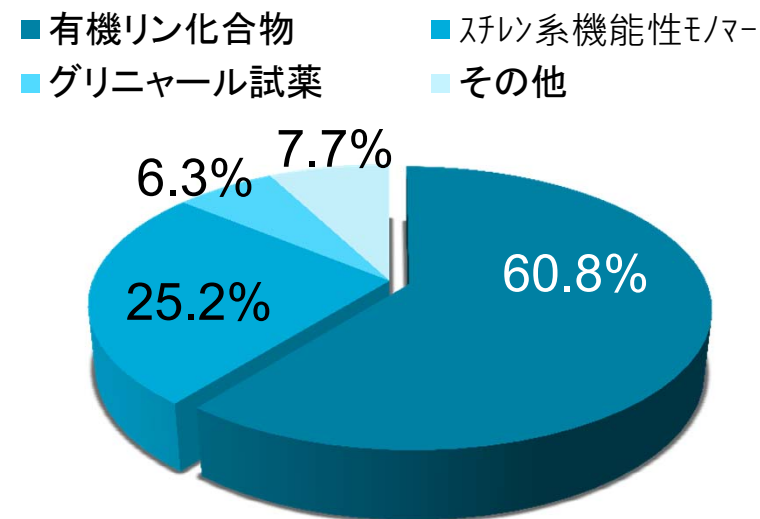
## ◆ 受託製品

- 長年の技術・ノウハウの蓄積をベースとして、取引先との緊密なリレーションのもと、広範な分野にわたり製造を受託
- 中でもグリニャール反応は、世界でも有数の技術・規模により取引先からの幅広いニーズにしている

売上高構成(自社・受託)



自社製品売上高構成



## □ グリニヤール反応について

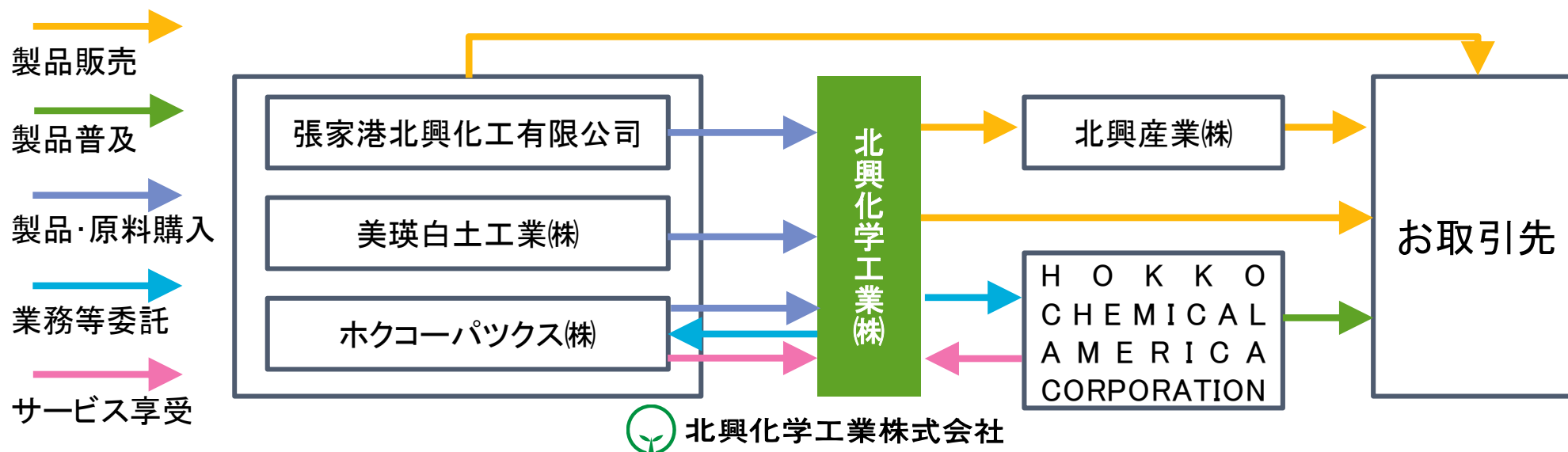
- 1900年にフランスのヴィクトル・グリニヤール(後に本研究でノーベル化学賞受賞)により開発された有機マグネシウムハロゲン化合物(グリニヤール試薬)が関与する反応の総称。グリニヤール試薬は反応性が非常に高く、広範囲の有機合成反応に応用されている。
- 医薬品中間体、有機EL原料、スチレン化合物、ホウ素化合物、リン化合物などの合成において、現在も重要な位置を占めている。
- 他の有機金属(リチウム、ナトリウムなど)反応剤と比べて発火性が低く取扱いが容易なため、工業的にも広く利用されているが、試薬合成時の発熱の制御が難しいため、グリニヤール試薬の大量合成を行っている企業は少ない。

## □ TPP (Tri Phenyl Phosphine) について

- 世界需要は 5000トン以上、ここ数年増加傾向にある。
- ライバルメーカーは、欧州の大手企業、中国新興企業。
- ビタミン、医薬品、石油化学、電材などの分野に広く使用されている。

# □ 連結子会社・非連結子会社

	名称	拠点	主な事業内容
連結子会社	張家港北興化工有限公司	中国江蘇省	ファインケミカル製品の製造・販売
	美瑛白土工業(株)	東京、北海道	銅基剤、白土およびバルーン(白土発泡球体)等の製造・販売
	ホクコーパックス(株)	東京、岡山	石油製品等の販売、当社の福利厚生業務
	北興産業(株)	東京	ファインケミカル製品等の販売
非連結	HOKKO CHEMICAL AMERICA CORPORATION	米国ノースカロライナ州	農薬市場の調査、農薬製品の普及



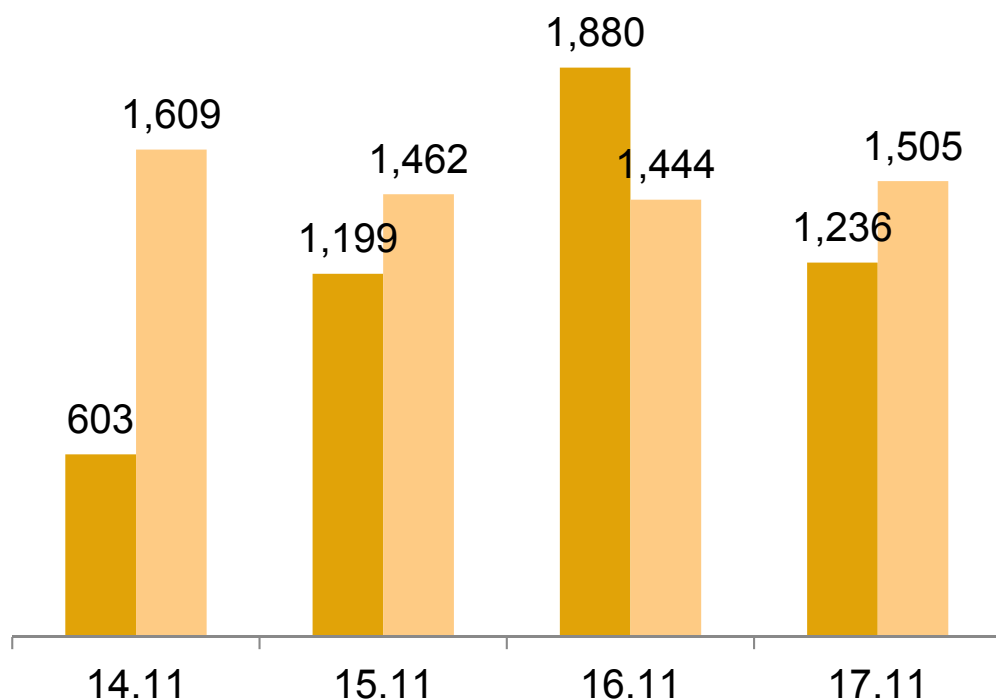


# □ 設備投資・研究開発費の実績

(百万円)

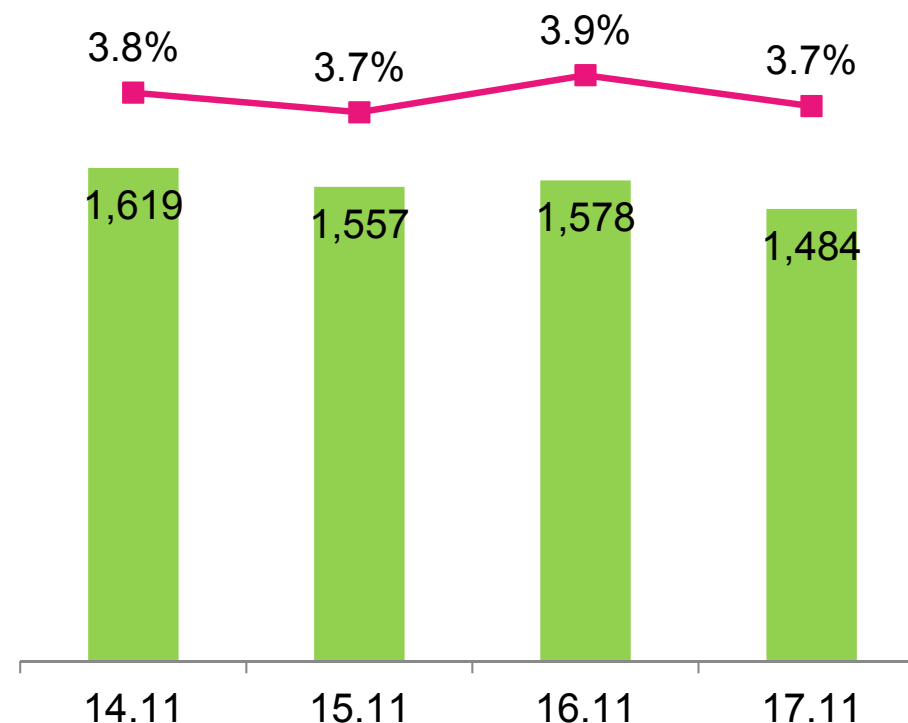
## 設備投資・減価償却費

■ 設備投資  
■ 減価償却費



## 研究開発費

■ 金額  
■ 対売上比率



- 設備投資は、前3カ年経営計画期間(2015年11月期～2017年11月期)に合計45億円を計画、実績金額は43億円

本資料に記載されている業績予想に関しましては、現時点で得られた情報に基づいて算定したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。

■ お問い合わせ先

北興化学工業株式会社

企画部 IR担当

電話：03-3279-5151

FAX：03-3279-5195